

第10回 陶磁とその道



21 染付文字文碗
中国 景德镇窯
正徳年間(1506~1521)
口径12.4 高6.3 底径5

アラビア文字のデザインで彩られた景德镇の青花（染付）碗

ご挨拶



- こんにちは、講師の深山です。
- 第10回の授業はオンデマンドでの実施となります。準備の関係上、リアクションペーパーへのフィードバックは次回とさせていただきます。
- では、本スライドを熟読し、受講としてください。
- 受講後にはリアクションペーパーの提出も忘れないようにしてください。

今回の授業では陶磁とその道
について学んでいきます。

「陶磁の道」

- 「陶磁の道」とは、東洋史、考古学の研究者であった三上次男が提唱した東西交流の経路のことです。
- 三上は海のシルクロードを「陶磁の道」と命名し、貿易陶磁研究を確立しました。
- 「陶磁」とはといっても、「陶器」と「磁器」は厳密には異なる種類の焼き物です。
- 陶器は光を通さず表面は多孔質のやきものであり、磁器は光を通しほとんど吸水性のないやきものです。
- 実は磁器は、前近代においては生産できる地域が非常に限られていました。

<https://images-na.ssl-images-amazon.com/images/I/31hXVg0eo3L.jpg>



『陶磁の道 -東西文明の
接点をたずねて-』
三上次男

陶器と磁器の特徴

陶器

- 光を通さない
- 表面は多孔質
- 叩くと鈍い音がする
- 胎土はガラス化しない



磁器

- 光を通す
- 吸水性がない
- 叩くと高い金属音がする
- 胎土はガラス化している



断面の色や質感で見ると陶器と磁器の違いが分かり易いです。

磁器生産に必要なもの：胎土

- 磁器の製作にはカオリナイトを豊富に含む土を胎土として用います。こうした土壌は比較的限られた地域でしか発見されません。



カオリナイトという鉱物の名称の由来となった中国の江西省、景德镇窯近くの採掘地「高嶺」現在は国家鉱山公園となっています。



日本の有田焼の原料となった陶石の採掘場、泉山磁石場

磁器生産に必要なもの：温度

- そして磁器の生産に不可欠なのが高温焼成です。カオリナイトの中に含まれるケイ酸質は1300度以上の高温焼成によってのみ溶融し胎土がガラス化します。
- したがって、カオリナイトを豊富に含む胎土が採れること、非常に高温で焼成できる窯の技術があることが磁器生産に必要な条件となります。

(金沢2010)

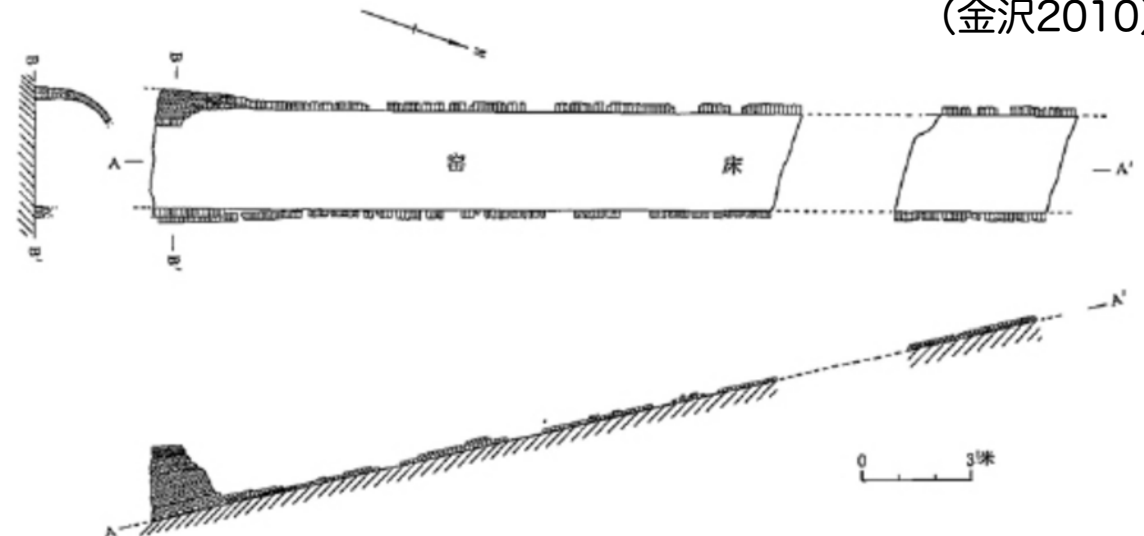


図 11 景德鎮湖田窯址検出の宋代龍窯実測図
(江西省文物研究所・景德鎮民窯博物館『景德鎮湖田窯址 1988～1999 年考古発掘報告』文物出版社、2007 より)

中国の宋代には「龍窯」と呼ばれる登窯が利用されていました。登窯では、山などの傾斜に沿って階段状に構築され、下方に燃焼室、上方に焼成室を作ってやきものを焼成します。

磁器の広まり

- 磁器ははじめ、中国の中原王朝の皇帝や貴族の墓への副葬品（明器）として使用されていました。
- 宋代（960-1279年）になると、喫茶の習慣の広まりとともに磁器（白磁や青磁）は日常容器として盛んに用いられるようになります。



青白磁水注・承盤
北宋（11～12世紀）
愛知県陶磁美術館蔵

<https://twitter.com/toujibijutsukan/status/1309408973284544519/photo/1>



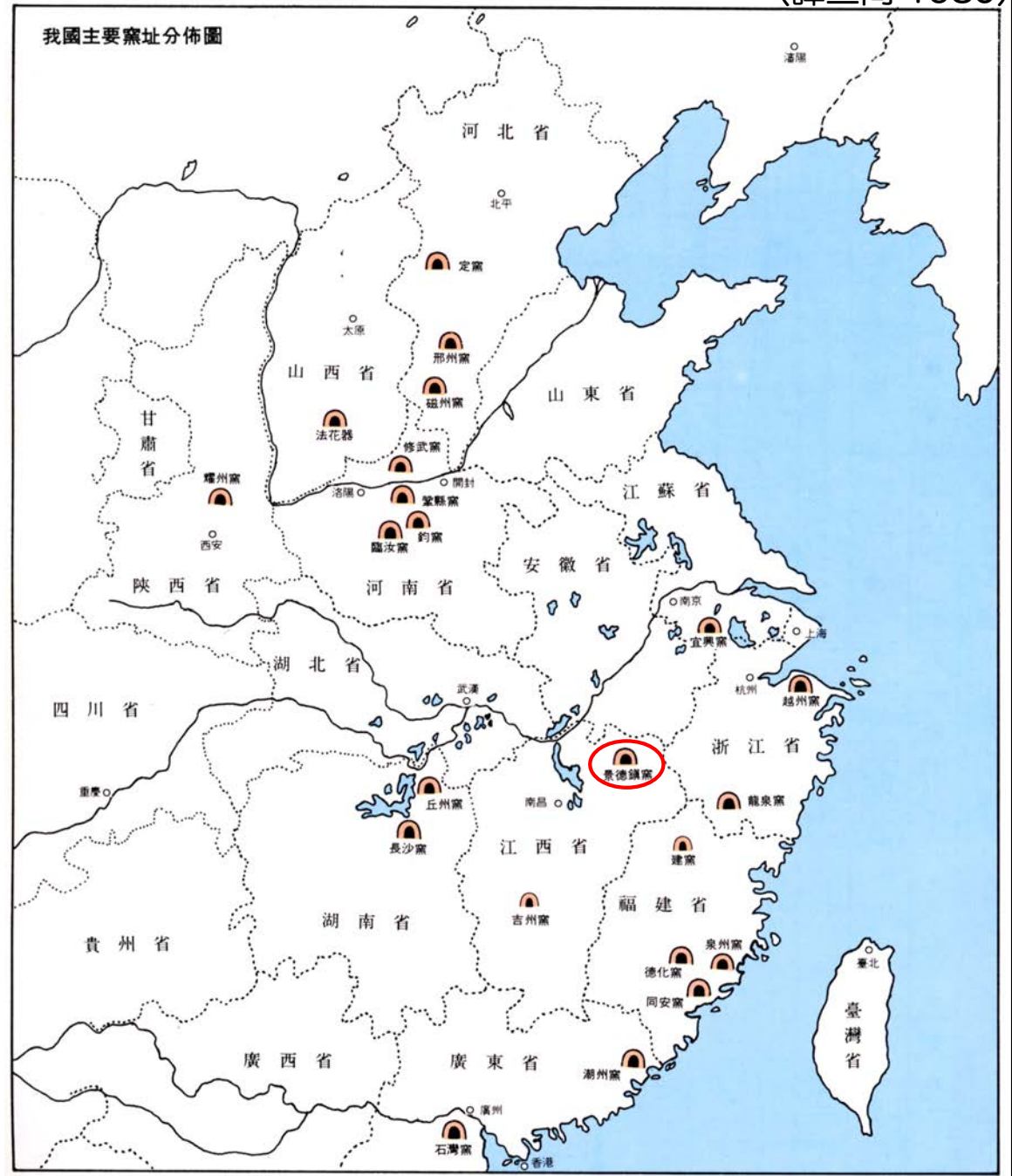
青磁茶碗 銘馬蝗絆
南宋（13世紀）東京国立博物館蔵

http://emuseum.nich.go.jp/detail?content_base_id=100886&content_part_id=001&content_pict_id=004&langId=ja&webView=

中国における磁器生産

(譚旦岡 1980)

- 有名な磁器産地の一つである景德鎮は、宋の真宗が当時の年号「景德」を授けたことで景德鎮窯と名を改め、以降官窯として稼働しました。
- 宋代に磁器の焼成技術が向上し、その品質の高さから中国以外の地域でも求められるようになりました。



中国磁器の輸出と「陶磁の道」

中国から輸出された磁器は遠く離れたイラクやエジプトでも発見されています。こうした分布状況から「陶磁の道」の存在が提唱され、東西交流の研究で現在でも非常に重要な資料となっています。

出土地の一つ、アル・フスタート遺跡（エジプト）

- 7～12世紀に繁栄した商業都市。
- 中国陶磁、シリア、トルコ、キプロス、イタリア、スペイン、北アフリカ、イラン、タイ、ベトナム産の陶磁器が出土しており、海のシルクロード経由で様々なやきものが行き交っていたことが明らかになりました。

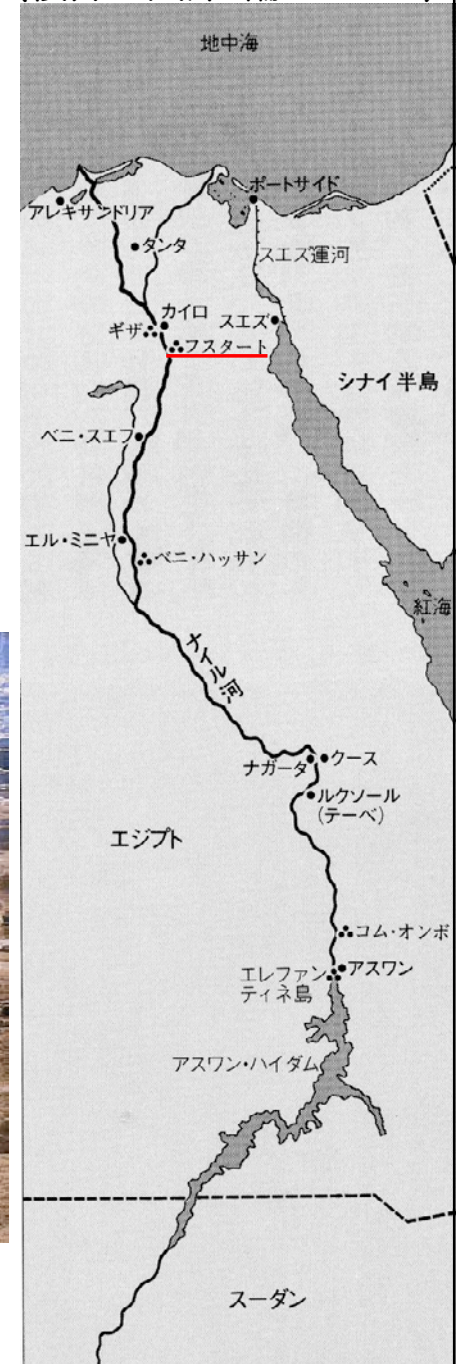
アル・フスタート遺跡

(桜井・川床 編 1992)

- 12世紀に最盛期を迎えたアル・フスタートは人口20万人に達していたと言います。
- 1168年のエルサレム王国の侵攻で灰燼に帰すまでエジプトの商業の中心地でした。
- その後、エジプトの中心はカイロに移ります。
- 14世紀後半にペストが流行した際、街は放棄されました。



アル・フスタート遺跡遠景



アル・フスタート遺跡

- ・遺跡では、町の区画、住居の基礎などのほか、壁に立てかけられた状態のアンフォラ（ボトル状の陶器）など、当時の人々の生活の様子がうかがえる遺構や遺物が発見されています。



(Miho Museum 編 2003)



4. ピット32及び排水溝



1. 壁体番号 C1 東面の直立アンフォラ列

アル・フスタート遺跡のイスラム陶器

- 遺跡では大量のイスラム陶器（施釉の陶器）の瓶や皿、ランプなどが発見されています。



遺跡から出土したイスラム陶器

(桜井・川床 編 1992)

アル・フスタート遺跡のイスラム陶器

- イスラム陶器には様々な装飾技法や色調、文様のタイプが見られます。イスラム教では偶像崇拝が禁じられていることもあり植物の紋様が多く見られます。



三彩刻線パルメット文鉢
10～11世紀、イラン



多彩堆線聖獣文皿
12世紀、イラン



色絵アラバスク文鉢
12世紀後半～13世紀初、イラン

アル・フスタート遺跡のイスラムガラス

- ガラス容器は日常食器やランプなどに用いられました。



エナメル装飾の施されたガラス片。人物が描かれているのが分かります。



吹きガラス容器

(桜井・川床 編 1992)



カット装飾杯 (9-10世紀)
イラクまたはイラン

カットガラスは透明ガラスに色ガラスをかぶせて吹き、表面をカットして文様を浮き上がらせる手法。
クーファ文字と鳥があらわされており、アッラーと読めそうな部分もある。

アル・フスタート遺跡の中国陶磁

- 10世紀以降の中国陶磁器が出土したことで、それまで不明瞭だった東西交流の詳細が明らかになりました。



中国陶磁（青白磁）
エジプト フスタート出土 10－12世紀



中国陶磁（白磁）
エジプト フスタート出土 10－12世紀



中国陶磁（染付）
エジプト フスタート出土 14世紀

（桜井・川床 編 1992）

アル・フスタート遺跡の中国陶磁

- 白磁や青磁、青花（染付とも言う。白地にコバルト顔料で紋様を描く）の中国磁器が出土しています。



25

青磁刻花牡丹文鉢

中国 元時代末期～明時代初期 14世紀



26

青花牡丹唐草文輪花皿

中国 明時代・洪武（1368－98）

（桜井・川床 編 1992）

中国陶磁の模倣

- 中国青磁は次第にイスラム文化圏で模倣製作されるようになりますが、現地では磁器を作る技術がなかったこともあり施釉陶器（表面に釉薬をかけて焼く陶器）として生産されます。

緑色（青色）の釉薬がかかっていますが、割れた断面の胎土を観察すると陶器と磁器の違いは明瞭です。陶器は茶色っぽく、時期は白っぽく見えます。



イスラム陶器
エジプト フスタート出土 10-13世紀

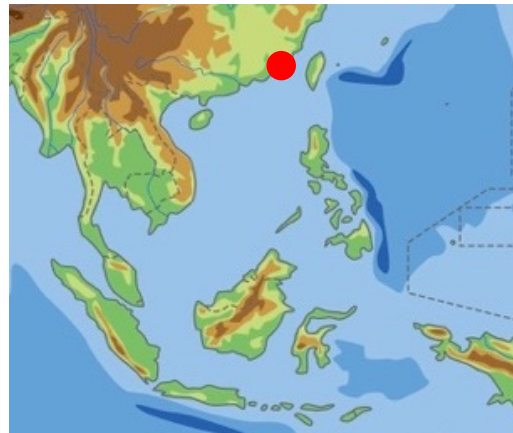


中国陶磁（青磁）
エジプト フスタート出土 9-14世紀

西から東へもたらされた陶器

(明治大学博物館 2009)

- 中国福建省の閩国王夫人 劉華墓（五代、10世紀）ではペルシア製の青釉四耳壺4点が副葬品として発見されています。
- ペルシアの青釉陶器「破片」は各地で発見されていますが、完形品としての発見は大変珍しいことでした。
- 西から東へもやきものがもたらされていたことがわかります。



青釉四耳壺（イランまたはイラク）10世紀

貿易陶磁器と考古学研究

- 陶磁器に関連して、中国、朝鮮半島、日本、東南アジアの生産遺跡である窯址と、陶磁器を消費した（使っていた）都市遺跡などが発見されています。
- 東南アジアではタイやベトナムで輸出用の陶磁器が製作されており、こうした製品は実は日本でも発見されています。
- つまり貿易陶磁は、考古学の分野では珍しい「いつ・どこで作られたのか／使われたのか」を明らかにすることができる遺物と言えます。
- こうした理由から貿易陶磁は年代の不確かな遺跡について検討する上でも非常に重要な位置を占めています。

以上、 陶磁器と「陶磁の道」の概要、
陶磁器の資料的価値についてみてきました。

以下では東南アジアの初期の沈船資料を中心に
陶磁器と貿易についてみていきましょう。

沈船と陶磁器

- 消費の痕跡（使っていたことがわかる遺跡）、廃棄の痕跡（捨てたことがわかる遺跡）として、沈船資料も非常に重要です。
- 沈船資料は「沈没した時点で存在していた様々なモノ」が一括して遺存しているという点でタイムカプセルのようなものと考えられます。
- 沈んでいる船は多くの場合、交易などに利用された商船であるため、10世紀以降の沈船にはほぼ必ず貿易陶磁が積まれています。そのため、発見された陶磁器を手掛かりに、その船の積荷や船自体の年代、船が沈んだ時期をある程度正確に特定することができるのです。

沈船と陶磁器 ―チャウタン沖沈船―

(Nishino et al. 2017)

- ベトナム中部の海中で発見された沈船。
- 唐代（9世紀）の船と考えられ、現状では南シナ海で最古の沈船資料とされています。
- 周辺では他にも多くの陶磁器が発見されており、少なくとも6、7隻以上の沈船や積荷があると推定されています。
- 周辺海域では海難事故が多発していたと考えられます。



沈船と陶磁器　ーチャウタン沖沈船ー

- 船の積荷には中国の越州窯、長沙窯、定窯の陶磁器のほか、イラク産イスラム陶器などが報告されています。
- こうした陶磁片の中には、表面に文字がしるされた資料が多数含まれています。
 - 刻文資料：多くは漢字。中にはアラビア文字を模倣した疑似アラビア文字と推測されるものがある。
 - 墨書資料：インド系文字、アラビア文字、漢字が書かれる。インド系文字は初期カウティ文字（8～10世紀）であった。なかには「アンバラーク（有名なイランの港市シーラーフ北西の地名）」と記された資料も確認されています。
- 文字のある陶磁器は広東省産であることから、船の出港地は広州と考えられます。

沈船と陶磁器 —チャウタン沖沈船—



FIGURE 3 *Left: Yue bowls. Right: Yue ewers.*

PHOTOS: NISHINO NORIKO AND NOGAMI TAKENORI.

越州窯の磁器

(スライド31の長沙窯製品と見比べてみましょう)



FIGURE 4 *Left: Changsha-Tongguan bowls. Right: Changsha-Tongguan ewers.*

PHOTOS: NISHINO NORIKO AND NOGAMI TAKENORI.

長沙窯の陶器

沈船と陶磁器 —チャウタン沖沈船—



FIGURE 6 *Left: Ash-glazed jar with six handles produced in Guangdong. Right: Fragments of Islamic jars.*

PHOTOS: NISHINO NORIKO AND NOGAMI TAKENORI.

左：広東産の灰釉陶器 右：イスラム陶器の破片

沈船と陶磁器　ーチャウタン沖沈船ー

- 「アンバラーク」と底部に墨書された陶器片。積荷の行き先と考えられます。

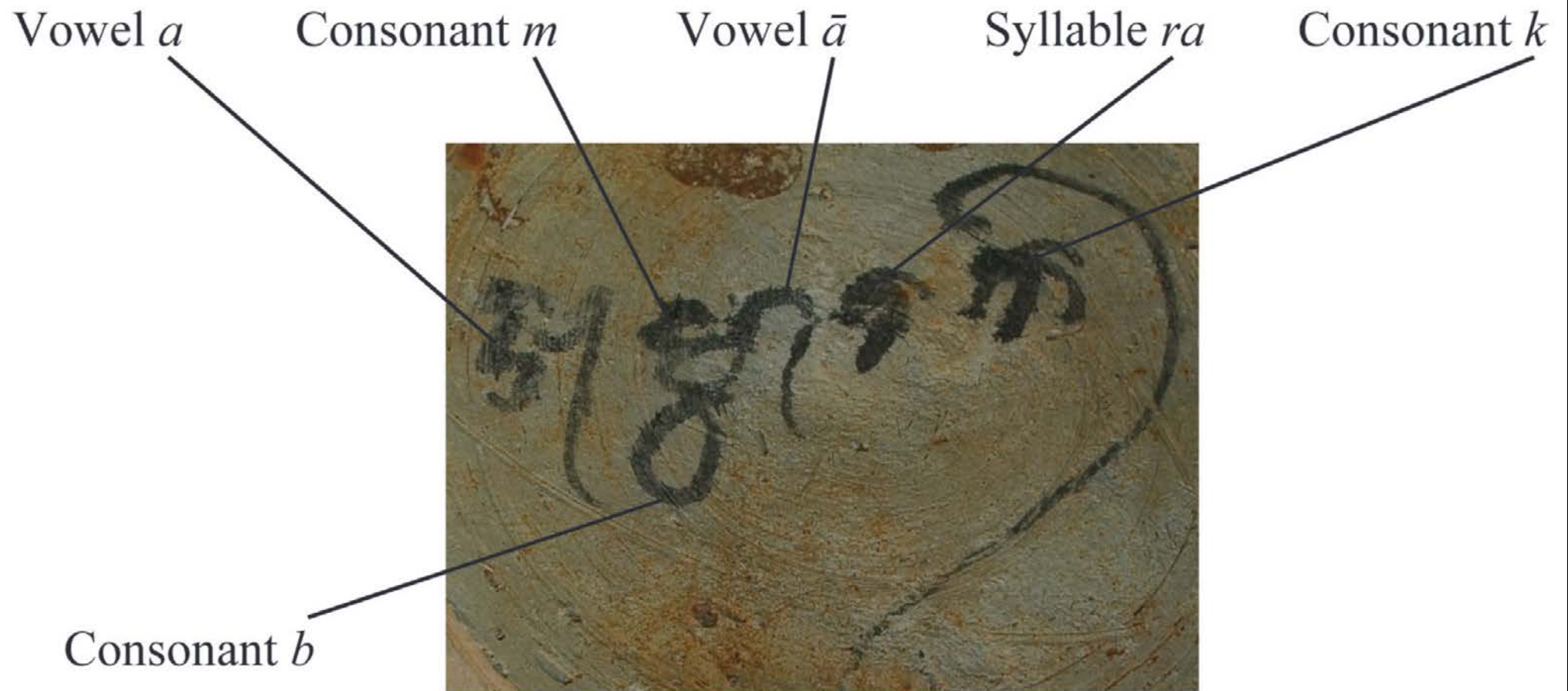


FIGURE 7 *Ambārak written in Southern Brahmic script.*

PHOTO: TORU AOYAMA.

沈船と陶磁器　ーチャウタン沖沈船ー

- チャウタン沖沈船では陶磁器などの積荷だけでなく船体の一部も引き揚げられています。
- 船の構造からは東南アジア在来の技術（ラッシュラグ構法）によって建造された船と確認されています。
- キール材（竜骨）の年代測定結果から7世紀後半～8世紀中頃に伐採された木材であることがわかりました。

(Nishino et al. 2017)



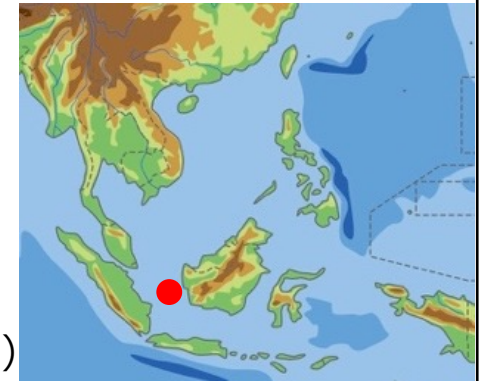
FIGURE 2 Top: Disarticulated hull timbers. Bottom: One of the keel timbers.
PHOTO: KIMURA JUN. PHOTO: KEVIN EDWARDS.

上：部位の不明瞭な船材　下：キール（竜骨）材

沈船と陶磁器　ーブリトゥン沈船ー

- インドネシアのブリトゥン島沖で1998年に発見された沈没船。
- 唐代（9世紀）のアラブ系縫合船（ダウ船）で、越州窯、長沙窯、イスラム陶器などが発見されており、初期貿易陶磁の典型的な組みあわせと言えます。
- 縫合船はアラビア、インド系商人（ムスリム商人）の使用していた船で、船材の板と板をロープで縫い合わせて構築します。

（朝日新聞社 1989）



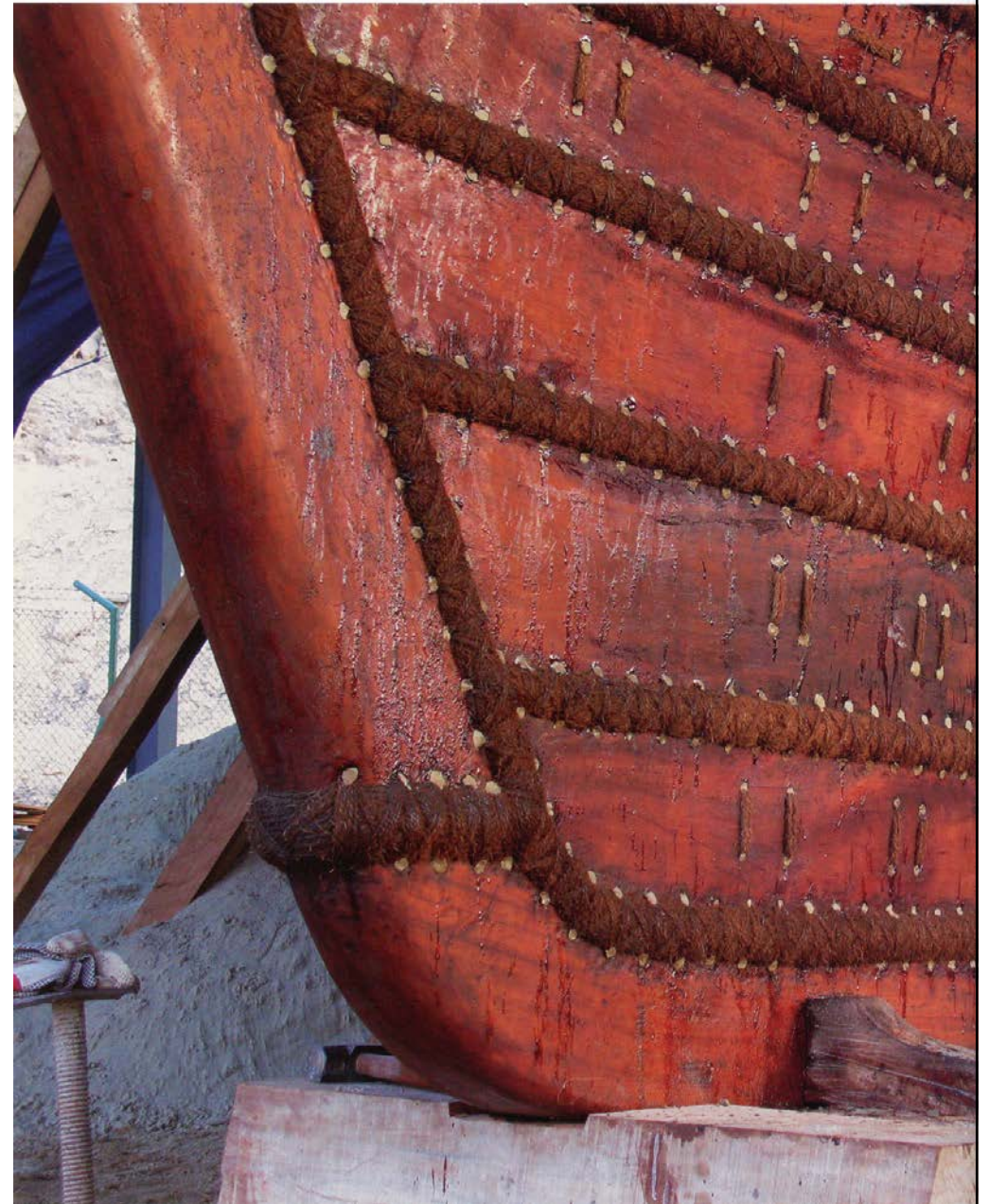
アル・ハリリーの
『マカーマート』に描かれた縫合船

縫合船（ダウ船）

(Vosmer 2011)



ブリトゥン沈船を基に復元され、2010年に
オマーンからシンガポールまで航海実験が行われた
「マスカットの宝石」号



板材を「縫う」のに使われたのはココナツの繊維

沈船と陶磁器　ーブリトゥン沈船ー

- ブリトゥン沈船から発見された中国の長沙窯の陶器（写真下の小皿）は、広東省の窯で作られた「ドゥスン・ジャー」と呼ばれる粗製壺に入れられて運ばれました。
- 陸上輸送に比べると、海上輸送のコストは格段に低く、陶磁器の破損率も低かったと言います。



Fig. 47 Once much of the sediment was flushed out, immaculate Changsha bowls (also left) could be seen tightly packed inside a Dusun-type jar.

沈船と陶磁器　ーブリトゥン沈船ー

- 陶磁器のほかにも、香辛料が積荷として発見されています。
- 粗製壺のなかに残存しているのは中国原産のスター・アニス（八角）です。



https://cdn.sbfoods.co.jp/spicesherbs/00029_2_1.jpg

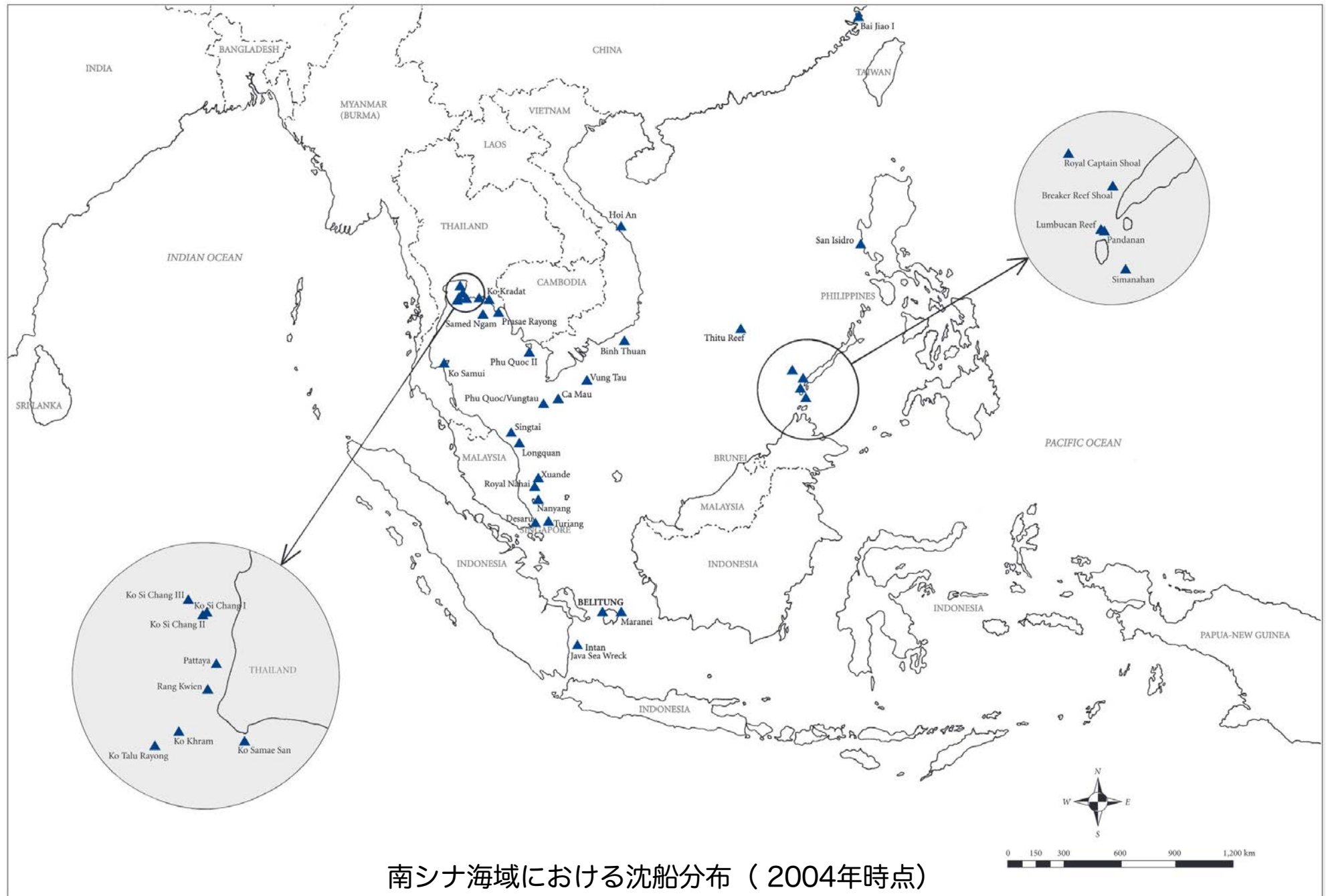


東南アジア海域を行き来した船

- チャウタン沈船（東南アジアの在地の船）やブリトゥン沈船（イスラム商人の船）の存在からは、東南アジアの海で複数タイプの船が航行していたということがわかります。
- 中国商人、イスラム商人、東南アジア在地の商人がそれぞれの船で貿易活動をしていたのです。
- 世界中の陶磁器の消費地は次第に特別注文によって自分たちが必要とする種類・デザインの器を手に入れようとし、中国の窯元もこれに応じて商品を生産します。
- 沈船資料を詳細に分析すると、時期ごとの陶磁器の消費動向なども知ることができます。

東南アジアの沈船分布

(Brown 2004)



南シナ海域における沈船分布（2004年時点）

沈船の盗掘被害

- 考古学的な資料価値が非常に高い陶磁器ですが、コレクターが多くいるため、沈船資料は常に盗掘（サルベージング）の被害にさらされています。
- 水中遺跡から遺物を引き上げることは違法ですが、盗掘を行う人々は「救助権」の行使という名目で引き上げをおこなっています。
- 盗掘された資料は「@@カーゴ」「@@沈船資料」と銘打たれて、オークション等で高値で取引されます。
- 水中考古学の調査には陸上遺跡の調査と比べてもかなりの予算や人的資源が必要となり、盗掘の被害に遭う前に発見・調査するのは非常に難しいのが現状です。

今日のまとめ

今日は陶磁の道としての東南アジアについて学びました。

授業のポイントは以下の3点です

- 陶器と磁器は異なるやきものです。総称して陶磁器と呼びます。
- 貿易陶磁器は生産遺跡と消費遺跡が両方発見される事例が多い
ため、いつ・どこで作られ、いつ・どこで使われた（捨てられた）
のかを明らかにできる点で重要な遺物です。
- 東南アジアの沈船資料の研究から、特定の時期の、特定のアイ
デンティティを持つ商人が、どのような陶磁器を商品としてい
たのかを知ることができます。

しっかりと理解することができましたか？

おまけ：チャウタン船の現在

授業でも触れたチャウタン沈船の持ち主であるコレクターの方を訪ねる機会が2011年にありました。その際、引き上げられた船材を見せていただきましたが、駐車場に無造作におかれ、ビニールシートがかけられているのみでした。水中から引き上げられた木材は保存処理を施さないと、どんどん腐敗したりひび割れたりして状態が悪くなっていきます。

しかし、保存処理のためには特別な設備等が必要で、これは一個人、あるいは東南アジア各国の調査機関では残念ながら現状不可能に近いです。



先史時代の遺物からベトナム陶器、貿易陶磁まで大量のコレクションを保持していらっしゃいました。ビニールシートの下に見えているのがチャウタン船の船材です。

リアクションペーパー提出

CLASSから回答・提出してください

- 第10回 受講後アンケート（リアクションペーパー）
- 回答は7月1日の23:59までとなっていますので安心してゆっくり取り組んでください。

本日は以上です。お疲れ様でした！

引用・参考文献

- 朝日新聞社. (1989). 『朝日百科 世界の歴史』 39
- 金沢陽. (2009). 「景德鎮白磁青花出現の契機についての若干の考察」 『出光美術館研究紀要』 (15): 17-33.
- 桜井清彦, 川床睦夫編. (1992). 『アル=フスタート遺跡：エジプト・イスラーム都市：発掘調査 1978-1985年』 早稲田大学出版部
- Miho Museum 編. (2003). 『エジプトのイスラーム文様：暮らしの中に華開いた美しき意匠』 Miho Museum
- 明治大学博物館. (2009). 『ミュージアム・アイズ』 52.
- 譚旦岡. (1980). 『中國陶瓷: 明代瓷器』 光復書局
- Noriko, N., Toru, A., Jun, K., Takenori, N., & Lien, L. T. (2017). Nishimura Masanari's study of the earliest known shipwreck found in Vietnam. *Asian Review of World Histories*, 5(2), 106-122.
- Brown, R. M. (2004). History of shipwreck excavation in Southeast Asia. The Belitung wreck: sunken treasures from Tang China, 40-55.
- Vosmer, T. (2011). The Jewel of Muscat. Shipwrecked—Tang treasures and monsoon winds, 121-135.